

出来る限り、以下の様式に沿った議事録を作成下さいますようお願いいたします。

(様式 2)

議事録番号

提出 令和元年 11 月 27 日

会合議事録

研究会名：表面界面・薄膜ナノ構造研究会

日 時：令和元年 8 月 29 日 15:00-17:00

場 所：岡山大学津島キャンパス一般教育棟 D24

出席者：坂田修身 (NIMS)、木村滋 (JASRI)、高橋正光 (QST)、田尻寛男 (JASRI)

計 4 名

議題：

「総合討論にむけた話題提供」

「総合討論」

議事内容：

表面構造科学の応用・基礎研究両面において SPring-8II への期待は大きい。応用研究では実材料への展開という大きなシードがある一方で、施設・ユーザ双方の努力によって計測対象・計測手法・解析手法が拡大し、表面界面の基礎研究も多岐にわたる方向性をもつに至っている。そこで、本研究会では、基礎研究に的を絞り、SPring-8II においてどのような表面界面の基礎研究を目指すか、について自由な立場で討論をおこなった。

まず、田尻氏より総合討論にむけた話題提供があった。SPring-8 における BL アップグレードが理研で具体的に検討され始めたことが報告され、表面界面・薄膜ナノ構造研究会も BL アップグレードに対して研究会会員の意見を集約したビジョンを示すべきであろうとの提案がなされた。表面界面・薄膜ナノ構造研究会は 1000 名近くの会員を擁しており、その意見集約は容易ではない。そこで、今回は、研究会会員の研究分野を広くカバーした研究会・シンポジウムを開催するためのシードを集めることを主な主眼として総合討論が行われた。

総合討論では以下の項目が議論された。

1. X線回折というくくりで考えた場合の表面界面分野の立ち位置
2. 放射光光源の質の変化（輝度だけでなく、コヒーレンスや高エネルギー等）

とその表面回折・散乱への利用展望

3. 東北リングの表面界面分野の装置開発の動向
4. 表面構造の基礎研究の未踏分野と応用研究に潜む基礎研究
(例) 極低温の He 超流動・In 表面超伝導や高密度 HDD 材規則合金の界面の原子配列・電子状態等
5. 放射光でないと開拓できない表面界面分野
6. 逆空間のピンポイント領域測定から、逆空間の面・体積測定とそのため
の新しい X 線回折装置の必要性 (新装置の試案提示を含む)
7. 国内の計測・解析手法開発のアクティビティ
8. 海外施設の表面界面構造研究の動向

上記話題についての議論を集約し、動向調査報告書に記載した。